

福祉生活病院常任委員会資料

(令和5年10月11日)

【件名】

- 令和5年度保育人材確保・定着に関する実態調査の調査結果について
(子育て王国課) 2

子ども家庭部

令和5年度保育人材確保・定着に関する実態調査の調査結果について

令和5年10月11日
子育て王国課

待機児童解消や安心・安全な保育の提供にあたり、保育士不足が問題となる中、県内における保育人材の確保・定着に関する実態やニーズ等を把握するため、現役保育士、潜在保育士、保育施設、学生を対象とした実態調査を実施しましたので、その結果を報告します。

1 調査概要

- (1) 調査方法 調査票の郵送又は配布による調査
- (2) 調査期間 7月21日～9月15日
- (3) 回答時点 8月1日

区分	対象者数	抽出方法	回収数	回収率
現役保育士	9,030名	鳥取県保育士登録者名簿（令和5年4月登録分）のうち概ね65歳以下の方（昭和32年4月1日以降に生まれた方）	1,280名	29.3% (宛先不明2,118名を除く)
潜在保育士			745名	
保育施設	290施設	公立私立を含む県内すべての保育所、認定こども園、幼稚園、地域型保育事業所、届出保育施設（令和5年4月1日現在）	170施設	58.6%
学生	222名	県内保育士養成施設における在学学生 鳥取大学：30名（1年生を除く定員数） 鳥取短期大学：192名	177名	79.7%

※ 鳥取大学の学生は令和5年11月頃に配布・回収・追加集計を行う予定。

2 調査結果の概要

(1) 保育士になったきっかけ、決め手、やりがい

- 保育士を目指したきっかけは、現役保育士、潜在保育士、学生ともに、「子どもと触れ合うのが楽しい」がトップだが、現役保育士と学生では、「憧れの先生との出会い」や「小中学校の体験」が上位なのに対し、潜在保育士では、「自身の成長」や「親や知人の勧め」が上位に入っている。
⇒幼少期や子どもの頃の実体験が職業選択に重要な要素となっている。

問 保育士を目指したきっかけ（複数回答）

- 答 〔現役〕①子どもと触れ合うのが楽しい（58.6%）、②憧れの先生との出会い（24%）、
③小中高の体験（15.6%）
〔潜在〕①子どもと触れ合うのが楽しい（59.9%）、②自身の成長につながる（18.1%）、
③親や知人の勧め（17.1%）
〔学生〕①子どもと触れ合うのが楽しい（71.8%）、②小中高生の体験（36.7%）、
③憧れの先生との出会い（32.2%）

- 就職の決め手や就職先選びで重視することは、現役保育士、学生ともに「働きがい」が上位に入るものの、現役保育士では、「通勤の利便性」や「勤務時間が合うこと」、学生では、「園の雰囲気・評判」と「給与」が、それぞれ上位に入っていた。

問 就職の決め手になったこと、又は就職先選びで重視すること（いずれも複数回答）

- 答 〔現役〕①通勤が便利（39%）、②働きがい（33.7%）、③勤務時間が合う（27.4%）
〔学生〕①園の雰囲気・評判（81.9%）、②給与（63.3%）、③働きがい（61%）

- 現役保育士が保育士になってよかったことは、「子どもの成長を実感できること」がトップで、次に、「保護者からの感謝」、「自身の成長につながる」と続いている。
⇒子どもの成長や保護者からの感謝が、保育士のモチベーションアップにつながっている。

問 保育士になってよかったこと（複数回答）

- 答 ①子どもの成長実感（95.7%）、②保護者からの感謝（42.4%）、③自身の成長（42.3%）

- 保育士としての就職を希望する学生は、約81%となり、進路に迷っている学生も多い。保育士を希望しない理由としては、「責任の重さへの不安」がトップとなっている。
⇒近年、保育事故や不適切保育がニュースで多く取り上げられている影響と考えられる。

問 保育士としての就職希望

- 答 ①希望する（81.4%）、②迷っている（15.8%）、③希望しない（2.8%）

問 保育士を希望しない（又は迷っている）理由

- 答 ①責任の重さへの不安（33.3%）、②他の職種に興味（27.3%）、③資格取得しなかった（24.2%）

(2) 保育士の離職経験と離職理由

○現役保育士の約9割が、これまでに1度は仕事を辞めたいと考えたと回答した。

問 仕事を辞めたいと考えたこと(単一回答)

答 ①たまに考える(52.4%)、②いつも考える(21.7%)、③以前考えた(16.5%)

○現役保育士の約43%が離職を経験しており、離職理由は、「職場の人間関係」がトップで、次に、「出産・育児」が続いた。保育施設が把握している離職理由にも、「健康・体力への不安」のほか、「職場の人間関係」が上位に入った。

⇒離職につながる直接の原因は人間関係が主なものと考えられる。

問 離職経験があるか(単一回答)

答〔現役〕①離職経験なし(56.7%)、②離職経験あり(43.3%)

問 離職理由(複数回答)

答〔現役〕①職場の人間関係(27.9%)、②出産・育児(27.6%、同率二位)、④業務の負担感(24.1%)
〔施設〕①その他(転職・配偶者の転勤等)(44.8%)、②自身の健康・体力への不安(35%)、
③職場の人間関係(30.8%)

(3) 潜在保育士が働いていない理由と復職に向けた要望

○潜在保育士が保育士として働いていない理由は、「健康・体力に不安」がトップで、次に、「賃金の低さ」、「責任の重さに不安」が続いている。また、回答者のうち約43%は、当該理由が改善されれば保育士として従事したいと回答している。

問 保育士として働いていない理由(複数回答)

答 ①自身の健康・体力に不安(32.7%)、②賃金(30.6%)、③責任の重さに不安(30.3%)

○潜在保育士が復職に向けて参加したいものは、「職場見学」がトップで、次に、「専門的な研修やセミナー」が続く。希望の研修内容は「保育実技」、「発達心理学」、「保護者対応」が上位に入る。

問 復職に向けて参加したいもの(複数回答)

答 ①職場見学(53.6%)、②専門的な研修やセミナー(48.9%)

問 希望の研修内容(複数回答)

答 ①保育実技(59.8%)、②発達心理学(57.6%)、③保護者対応(49.8%)

(4) 保育士の不足感と確保・定着に向けた課題

○保育士の「不足感あり」と回答した施設は、正規職員で62%、非正規職員で約57%となった。

問 保育士等の不足感

答 正規職員62%、非正規職員56.7%（「不足感あり」と回答した割合）

○保育士の確保・定着に必要なことは、現役保育士、潜在保育士、学生、施設ともに「給与改善」がトップで、学生以外では、「業務負担の見直し」、「保育士の配置基準の見直し」が続く。一方、学生は、「人間関係の円滑化」と「休暇が取得しやすい環境整備」が上位に入っている。

⇒給与と業務負担のバランスがとれていないことが問題と考えられる。若者は「人間関係の円滑化」や「休暇取得」を重視する傾向にある。

問 保育士確保・定着に必要なこと(複数回答)

答〔現役〕①給与改善(88.5%)、②業務負担見直し(74.1%)、③配置基準見直し(74%)
〔潜在〕①〃(81.8%)、②〃(74.8%)、③〃(61.5%)
〔施設〕①〃(83.3%)、②〃(70.2%)、③〃(67.9%)
〔学生〕①〃(76.3%)、②人間関係の円滑化(54.2%)、③休暇取得環境の整備(50.9%)

(5) その他

潜在保育士のうち、復職に前向きな意向をお持ちの60名については、本人の同意を得た上で、氏名や連絡先等を保育士・保育所支援センター及び市町村に提供しており、早期の復職に向けた就職情報の提供やマッチング等のアプローチを行っている。

3 今回の実態調査を踏まえた対応

○10月5日、実態調査の結果を県ホームページで公開するとともに、市町村や保育施設、また保育施設経由で現役保育士へも周知を行った。

○今後、市町村保育行政担当部署や現役保育士との意見交換を行いながら、令和6年度当初予算に向けて必要な施策を検討していく。